専門分野　：　臨地実習　　23 単位（1035 時間）

＜ねらい＞

1. 専門職業人として、知識と技術を活用し看護の対象に合わせて看護を実践する基礎的能力を養う。
2. 対象者および家族の意思決定支援の重要性を学び、人間を尊重する態度を養う。
3. 保健医療福祉システムにかかわる多職種との連携・協働をとおして、多様な場で生活する対象への切れ目のない看護を実践する基礎的能力を養う。

授業科目	単位・時間数
基礎看護学実習Ⅰ	1 単位　45 時間
基礎看護学実習Ⅱ	2 単位　90 時間
地域・在宅看護論実習Ⅰ	2 単位　90 時間
地域・在宅看護論実習Ⅱ	2 単位　90 時間
老年看護学実習	2 単位　90 時間
成人・老年看護学実習Ⅰ	2 単位　90 時間
成人・老年看護学実習Ⅱ	2 単位　90 時間
成人・老年看護学実習Ⅲ	2 単位　90 時間
小児看護学実習Ⅰ	1 単位　45 時間
母性看護学実習Ⅰ	1 単位　45 時間
小児看護学実習Ⅱ	1 単位　45 時間
母性看護学実習Ⅱ	1 単位　45 時間
精神看護学実習	2 単位　90 時間
看護の統合と実践実習	2 単位　90 時間

授業科目（単位―時間） 基礎看護学実習Ⅰ(1 単位―45 時間)	時　　期 1 年前期・後期	担　当　講　師 山口　理恵

〈　実習目的　〉

健康障害のある対象者が、心身ともに健康な状態に近づくための根拠に基づいた日常生活援助の実践を通して、看護に対する理解を深める。

〈　実習目標　〉

1. 健康障害にある対象者を理解し、快適な生活環境を考えることができる。
2. 対象者の安全・安楽に配慮した看護技術が実践できる。
3. 対象者の反応に注目し、対象者の気がかりに関心を寄せることができる。
4. 看護実践に必要な人間関係を成立させるためのコミュニケーションができる。
5. 自己の考えや気づいたことを適切な相手に報告、連絡、相談ができる。
6. 看護学生としての姿勢、態度を身につけ積極的に自己の向上に努めることができる。
7. 実習の学びを統合し自己の考えを表現することができる。

内容及び方法	実習場所
【基礎看護学実習ⅠA】前期 15 時間、**【基礎看護学実習ⅠB】**後期 30 時間で実施する。 1. 対象理解 　1）快適な療養環境の理解 　2）対象者の健康障害や入院による生活環境の観察 2.　対象に合わせた看護技術 　1）対象者に必要な日常生活の理解 　2）援助計画を立案（援助マニュアル）し、実施 　3）基本に基づくバイタルサインの測定とアセスメント 3. 対象者の気がかりに関心を寄せる 　1）対象の行動や態度、表情、言葉に関心を寄せた対応 　2）対象者の健康を回復・維持することの困りごとや心配事の共有 4. 援助関係 　1）礼儀正しく、誠実なコミュニケーション 　2）非言語的コミュニケーションの活用 　3）自己の関わり方の評価 5. 協働 　1）正確な報告･連絡･相談 　2）グループメンバーや臨地実習指導者、教員との情報共有と協力 　3）カンファレンスの学びを促進する行動 6. 実習態度 　1）主体的・継続的な学び 　2）実習に支障をきたさないための健康管理 　3）身だしなみの気配り、礼儀正しく節度ある行動 7. 実習の学びを統合 　1）学びを整理し自分の考えを表現	砂川市立病院 6 部署の病棟

〈　評　　価　〉

実習評価表に基づく評価

授業科目（単位―時間） 基礎看護学実習Ⅱ(2 単位―90 時間)	時　　期 2 年前期	担　当　講　師 和田　裕子

〈　実習目的　〉

対象の援助を科学的に導き、個別性のある日常生活援助を通して、看護に対する理解を深める。

〈　実習目標　〉

1. 健康障害にある対象より意図的に得た情報から必要な看護を理解できる。
2. 個別性を考慮した日常生活の援助が安全・安楽に実施できる。
3. 対象の意思を確認し、対象を中心に尊重した行動を考えることができる。
4. よい人間関係を築くためにコミュニケーション技法を用いて、傾聴と共感的理解ができる。
5. 看護チームの一員としての自覚と責任を理解し、自己の看護に対する考えを述べることができる。
6. 実習目標の達成に向けて継続的に学習し、主体的に行動することができる。

内容及び方法	実習場所
1. 対象理解 1）アセスメントに必要な情報収集と分類整理 2）対象の病態の理解 3）アセスメントの枠組みに沿った情報の分析 4）看護診断の特定 2. 計画立案・実施・評価 1）対象に適した看護計画の立案 2）個別性を意識した対象への説明 3）実施前・中・後の対象の観察と反応の確認 4）安全・安楽な実施 5）実施した援助の評価 3. 倫理に基づいた看護実践と振り返り 4. 援助関係 1）コミュニケーションの場と雰囲気づくり 2）患者のニーズの把握 3）対象の感情や思考に沿う傾聴と共感 4）自己のかかわりの評価 5. 看護チームの一員としての自覚と責任と看護観 1）報告・連絡・相談 2）アサーションを意識したカンファレンスの実施 3）多職種連携の理解 4）自己の体験をもとにした看護観 6. 実習態度 1）主体的･計画的な学習への取り組み 2）健康管理 3）ルールを守り信頼を得る行動	砂川市立病院 6 部署の病棟

〈　評　　価　〉

実習評価表に基づく評価

授業科目（単位ー時間） 地域・在宅看護論実習Ⅰ（2 単位ー90 時間）	時　　期 2 年前期	担　当　講　師 野田　孝子

〈　実習目的　〉

地域で生活している対象と家族の特性を理解し、さまざまな場を通して、その人らしく生きるための支援のあり方を学ぶ。また、地域の社会資源を知り、協働・連携の実際を通して地域包括ケアにおける看護職の役割について考察する。

〈　実習目標　〉

1. 疾患や障がいをもちながら地域で生活する対象とその家族の暮らしを捉えることができる。
2. 対象に対する看護を、支援を受けながら実践することができる。
3. 対象と家族の権利を尊重し、意思決定を支える支援について考えることができる。
4. パートナーシップを意識し、対象とその家族のニーズを捉える関わりができる。
5. 地域での暮らしを支える人々を知り、多職種連携と看護について、自己の考えや気づきを述べることができる。
6. 実習目標の達成にむけて学習を継続して取り組むことができる。

内容及び方法	実習場所
1. 地域の介護施設（グループホーム）、通所介護、特別支援学校などの見学実習を通して、地域に暮らす人々と暮らしを理解したことを表現する。 2. 対象とその家族に対する生活や教育支援について、シャドーイングと見学から学びを得る。 3. 対象と家族に対する施設職員との関わりから、自己決定を尊重したコミュニケーションについて考える。 4. 対象と家族の健康状態・成長発達、対象者と家族の生き方、生活に対する思いについて自己の意見を表現できる。 5. 地域・在宅看護の役割について意見交換し、まとめた考えを共有することができる。 6. 実習目標の達成に向けて, 自己の健康管理をしつつ、学習を継続して取り組むことができる。	北海道美唄養護学校 認知症対応型共同生活介護 ・グループホーム 3-4 箇所 通所介護 ・市内デイサービス・デイケア ・通所リハビリテーション（みやかわ） ・在宅老人デイサービスセンター（福寿園）

〈　評　　価　〉

実習評価表に基づく評価

授業科目（単位－時間） 地域・在宅看護論実習Ⅱ（2 単位－90 時間）	時　　期 3 年前期・後期	担　当　講　師 野田　孝子

〈　実習目的　〉

地域で生活する療養者とその家族の生活と望む暮らしを理解すると共に、地域の社会資源を踏まえた協働・連携の実際から、地域包括ケアシステムにおける看護職の役割について学ぶ。

〈　実習目標　〉

1. 地域で生活する療養者とその家族の生活状況を知り、対象の望む暮らしを理解できる。
2. 見学・実践を通して、対象の状況に合わせた効果的な在宅ケアを実施できる。
3. 対象とその家族を尊重し、パートナーシップ*を意識した関わりができる。
4. 地域包括ケアシステムにおける多職種の機能を知り、看護師の役割を理解できる。
5. 自己の看護観を表現できる。
6. 自己の課題を明確にし、主体的に実習に取り組むことができる。

内容及び方法	実習場所
1. 地域包括支援センター・訪問看護ステーション・地域医療連携室・看護外来での実習を通して、あらゆる健康レベルの対象に応じた看護の場や移行に伴う看護について考えを深める。 2. 地域で療養する対象と家族に関わり、継続看護にむけた根拠に基づく判断実践ができる。 3-1) 対象と家族に対する施設職員の関わりから、パートナーシップを意識した関わりについて考え、実践する。 2) 在宅療養に必要な医療機器管理・観察、異常の早期発見の基本事項について学び、その管理やケアの実際から倫理的に最善な看護実践を考えられる。 4. 地域包括ケアシステムにおける多職種・他部署の役割と看護の役割について理解したことを表現する。 5. 地域包括ケアシステムの在り方、地域・在宅看護の役割について意見交換し、看護観を醸成する。 6. チームの一員として健康管理に努め、実習目標の達成と自己の課題を意識した計画的、継続的な学習に取り組むことができる。	砂川市立病院 ・訪問看護ステーションよつば ・地域医療連携室 ・看護外来 砂川市地域包括支援センター

〈　評　　価　〉

実習評価表に基づく評価

授業科目（単位ー時間） 老年看護学実習（2 単位ー90 時間）	時　　期 1 年後期	担　当　講　師 槙　麻夕子

〈　実習目的　〉

1. 地域で暮らす高齢者とコミュニケーションをとり、地域で生活する高齢者の身体的・心理的・社会的特徴について理解を深める。
2. 入院中の高齢者の生活支援を知り、高齢者の特性をふまえたケアについて考える。
3. 高齢者の生活を支える生活環境やヘルスケアシステム（人）について知る機会とする。
4. 見学、観察、実践で、高齢者を敬い対象の立場から考える態度を養う。

〈　実習目標　〉

1. 病院および地域で暮らす高齢者の身体的・心理的・社会的特徴が理解できる。
2. 高齢者ケアの実際から、高齢者の特性とケアの関連を意味づけることができる。
3. 高齢者の立場から「寄り添う」態度について自己の考えを表現できる。
4. 高齢者に関心をもち、相手の気持ちを考え誠実にコミュニケーションをとることができる。
5. 高齢者の生活を支える人（ヘルスケアシステム）を知り、自己の考えや気づいた事を適切な相手に報告・連絡・相談、伝達ができる。
6. 実習目標の達成に向けて学習を継続して取り組むことができる。

内容及び方法	実習場所
1. 各臨地実習場所で関わる高齢者と実際にコミュニケーションをとる。 1）既習内容や高齢者の特徴を意識し、工夫をする。 2）人生の先輩として生きてきた過程について語りを聴く。 2. 病棟では看護師と患者、施設ではスタッフと施設入居者（利用者）との関わりから、寄り添う姿勢について考える。 3. 主に入院中の高齢者の特徴について気づきを得る。 1）観察、コミュニケーションから以下の高齢者の特徴に着目する。 ：①皮膚状態、②身体活動、ADL の自立、③その他視聴覚機能や外観の加齢変化 2）高齢者の生きてきた過程の語りを促し、心理･社会的特徴について気づきを整理する。 4. 入院中の高齢者のケアで、看護師がどのように生活を支えているのか、シャドウイングと一部のケアから学びを得る。 1）看護師がどう考えてそのケアをするのか語ってもらい知る。疑問は確認する。 2）高齢者の特性とケア・配慮にどのように関連性があるか考えを明確化する。 5. 地域で高齢者が生活するとはどういうことか理解したことを表現する。 1）各施設の実習終了後、学内で異なる場の学びについて共通すること、違いを共有する。 6. それぞれの場の学習内容・気づきについて記録用紙を用いて思考を整理する。 1）各施設の該当する記録用紙に、実習前、実習後に記録し、実習指導教員の確認を受ける。 2）記録用紙の提出･確認時期と方法は、実習指導教員と相談し決定する。 7. 高齢者が地域で暮らし続けるために必要なケアについて意見交換し、考えをまとめる。 1）実習最終日、学内で学びのまとめ・発表を行う。 2）実習目標 2-内容 2)、実習目標 5-4）を意識し、グループで意見をまとめる。 「高齢者の生活を支える人」「関わる人と看護と繋がり」「高齢者が地域で暮らし続けるために必要なケア」についてキーワードを整理する。	グループホーム （小規模多機能型居宅介護） 高齢者福祉事業 ・百歳体操 ・老人クラブ 介護老人保健施設 介護老人福祉施設 砂川市役所（介護福祉課高齢者福祉係） 公民館 砂川市立病院 ･5 部署

〈　評　　価　〉

実習評価表に基づく評価

授業科目（単位ー時間） 成人・老年看護学実習Ⅰ（2 単位ー90 時間）	時　　期 2 年後期	担　当　講　師 東條　奈穂

〈　実習目的　〉

疾病や障害による健康課題のある成人期もしくは老年期の対象を総合的に理解し、パートナーシップを形成しながらセルフマネジメントを支援する看護を学ぶ。

〈　実習目標　〉

1. セルフマネジメントが必要な対象の身体的・精神的・社会的特徴が理解できる。
2. 対象と支援者が、セルフマネジメントを可能にするための援助計画を立案し、実施・評価できる。
3. 看護の対象を尊重した行動およびその根拠を考えながら看護実践できる。
4. 対象と支援者が療養に対してエンパワメントされるように、パートナーシップを築きながら支援できる。
5. 他職種連携の中の看護師の役割を理解し、看護に対する考えを述べることができる。
6. 主体的に学習し、責任ある行動がとれる。

内容及び方法	実習場所
1. 教育的な関わりを実践する上で自己決定が可能な成人期もしくは老年期の患者を1名受け持つ。 2. 疾病や障害を持ちながら生活していくうえで必要なセルフマネジメントの習得を目指した看護計画を立案、実施する。 3. エンパワメントアプローチの実践を通して、自己決定を支える伴走者として対象を尊重した関わりについて考える。 4. 他職種との意見交換を通してチーム医療に関係する専門職について学ぶと共に、チーム内での協働について考える。 5. セルフマネジメントを支える看護について自身の体験に基づきの考えをまとめる 6. 学習者としての責任を自覚し、主体的に行動する。	砂川市立病院 ・6 部署

〈　評　　価　〉

実習評価表に基づく評価

授業科目（単位ー時間） 成人・老年看護学実習Ⅱ（2 単位ー90 時間）	時　　期 3 年前期・後期	担　当　講　師 東條　奈穂

〈　実習目的　〉

手術や疾病により呼吸・循環・代謝などの機能障害をもち、生命の危機的状態にある成人期もしくは老年期の対象を総合的に理解し、様々な生体反応を緩和し現在ある機能を最大限に高めていく為の看護を学ぶ。

〈　実習目標　〉

1. クリティカルケア看護が必要な成人期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴が理解できる。
2. 対象に起きている生体反応を緩和させ、回復促進にむけた安全・安楽な援助計画の立案と実施・評価ができる。
3. クリティカルケア看護を要する対象の権利を支え、倫理に基づく看護実践を目指した行動が取れる。
4. クリティカルケア看護が必要な対象と支援者に意図的に関わり、人間関係を築きながら適応を促すことができる。
5. 他職種との連携を学び、協働するうえでの看護の役割が理解できる。
6. 主体的に学習し、責任ある行動がとれる。

内容及び方法	実習場所
1. 手術および疾病により生命の危機的状態にある成人期もしくは老年期の対象を受け持ち、患者の苦痛や生活行動の変更に伴う苦悩を理解する。 2-1）侵襲に伴う生体反応を緩和させ、合併症を予防しながら回復を促す為の看護を、支援を受けながら実践し、評価、修正を繰り返しながら必要な看護についての学びを深める。 2）臨床判断のプロセスを丁寧に体験し、実践の意味づけを通して臨床判断能力の育成に努める。 3）看護師のシャドウイングを通してクリティカルケア看護の実際を体験する。 3-1）危機介入のプロセスを参考にしながら、対象及び支援者の苦痛の緩和とストレスマネジメント、意思決定支援を実践する。 2）対象にとって最善と思われる看護を、支援を受けながら実践できる。 4. クリティカルケア看護に関係の深い他職種との連携の実際を体験する。 5. 実践の中から生まれる学びを大切にし、看護観を醸成していく。 6. チームの一員として健康管理に努めると共に、疑問解決に向けて学習に主体的に取り組む。	砂川市立病院 ・3 部署 ・中央手術室 ・集中治療室

〈　評　　価　〉

実習評価表に基づく評価

授業科目（単位ー時間） 成人・老年看護学実習Ⅲ（2 単位ー90 時間）	時　　期 3 年前期・後期	担　当　講　師 槙　麻夕子

〈　実習目的　〉

1. 人生の語り、価値観の尊重を目指し、パートナーシップ構築ともてる力の発揮に着目したケアの実践を学ぶ。
2. 苦痛緩和や治療に伴う意思決定支援、グリーフケアなど倫理的課題に気づき最善を目指した検討を学ぶ。
3. 対象・家族の望む過ごし方（生活）の実現に向けて、チーム連携・協働を通し切れ目のない看護を学ぶ。

〈　実習目標　〉

1. 人生の最終段階にある対象と支援者の身体的・精神的・社会的特徴を統合し生活者として対象理解ができる。
2. 人生の最終段階にある対象の生命力の消耗が最小になるようにエンドオブライフケア（緩和ケア）の実施・評価ができる。
3. 人生の最終段階にある対象と支援者の危険回避と最善のケアを目指す倫理的検討ができる。
4. 人生の最終段階にある対象とパートナーシップを構築し、意思決定支援を意図したコミュニケーションがとれる。
5. 緩和ケアに関わる多職種との協働・連携を学び、看護チームの一員として報告･相談、伝達ができる。
6. 実習目標の達成に向けて、内省を活かし、継続して学習に取り組むことができる。

内容及び方法	実習場所
1. 終末期ケア・緩和ケアが必要な対象を受持ち、対象の特性に応じた系統的なヘルスアセスメント及び看護技術の応用によるケアの計画・実施 1）家族（重要他者）を含めて対象理解を深めながらパートナーシップの構築を目指す。 2）コミュニケーション、日々の環境調整・日常生活ケアの実践の継続から緩和ケア（エンドオブライフケア）の評価を行う。 2. 最善のケアを目指し、協働・連携を意識して、意見交換や報告・相談 1）人生の語り、自己決定の尊重を意図してコミュニケーションを行い、望む過ごし方（生活）、価値観を尊重し支援する。 3. 病棟で実践されている ACP など緩和ケアチームの活動や、多職種カンファレンスの実際を見学・一部参加 4. 臨床判断の活用とリフレクションの継続を意識した実践 1）生命力の幅に応じて臨床判断し、もてる力の発揮に着目して生活調整のケアを実施する。 2）倫理的ケアを目指し、自己のリフレクションも意図的に行う。 5. ACP について、病院での実践の事例（病棟・看護外来）の紹介・見学 6. 実習目標達成と自己の課題を意識した成長を目指す計画的、継続的学習	砂川市立病院 ・2 部署 〈　見学　〉 ・緩和ケア病棟 ・緩和ケアチーム

〈　評　　価　〉

実習評価表に基づく評価

授業科目（単位―時間） 小児看護学実習Ⅰ　（1 単位―45 時間）	時　　期 2 年後期	担　当　講　師 加藤　恵

〈　実習目的　〉
1. 小児の発達段階と特性を理解し、成長発達に働きかけるコミュニケーションを実践する。
2. 保育所や学童保育所など地域における小児をとりまく連携や協働の実際について学ぶ。
3. 小児の健康にむけて必要なセルフケア支援が実践できる。

〈　実習目標　〉
1. 小児の身体的・心理的・社会的な特性を、成長発達と関連付けて理解できる。
2. 小児の特性を意識し、健康の予防にむけたセルフケア支援を行うことができる。
3. 小児の権利や意思を尊重し、実践したことが「最善の利益」であるか考えることができる。
4. 小児の発達段階に合わせてコミュニケーションを実践し、小児と関係性を築くことができる。
5. 小児をとりまく地域の関係機関や職種について理解したことを述べることができる。
6. 主体的に学習し、責任ある行動ができる。

内容及び方法	実習場所
〈保育所実習〉 1. 各クラスの健康な乳幼児とのコミュニケーションから、発達段階・発達課題の特徴を理解する。 2. 小児の発達段階に合わせ、成長を支える意図的なコミュニケーションを行い、小児と良好な関係を築ける。 〈学童保育所実習〉 1. 学童期の小児とのコミュニケーションをもとに、発達段階・発達課題の特徴を理解する。 2. 学童期の小児の健康やもてる力をいかし、予防的観点から小児のセルフケアにむけて支援ができる。 〈保育所・学童共通〉 3. 「こどもの権利条約」を意識し、小児の人権や意思を尊重した支援を行う。 実践の後にこどもにとって最善の利益であったかを振り返ることができる。 4. 小児を取り巻く地域での関係機関や職種について学ぶとともに、協働や連携について考えることができる。 5. 主体的に学習し、責任ある行動がとれる。	砂川市市内保育所 3 箇所のいずれか 砂川市立病院 院内保育所 砂川市学童保育所 3 箇所のいずれか

〈　評　　価　〉
実習評価表に基づく評価

授業科目（単位ー時間） 母性看護学実習Ⅰ（1 単位ー45 時間）	時　　期 2 年後期	担　当　講　師 亀井　聡子

〈　実習目的　〉

地域における母子保健活動の場と役割について学ぶことや、地域で暮らす対象への性の健康教育の実践を通して、リプロダクティブヘルス／ライツの維持・増進を図る母性看護について理解を深める。

〈　実習目標　〉

1. 地域で生活する母性看護の対象の身体的・心理的・社会的特徴について理解を深める。
2. 母子保健活動の実際から、対象の特性と支援の関連を意味づけることができる。
3. 性の健康教育の実践を通して、リプロダクティブヘルス／ライツを守る看護について自己の考えを表現できる。
4. 看護実践に必要な人間関係を成立させるためのコミュニケーションをとることができる。
5. 母子保健活動の実際から他職種の役割を知り、各々の専門性を尊重し協働する必要性について気づきを表現できる。
6. 看護学生としての姿勢、態度を身につけ積極的に自己の向上に努めることができる。

内容及び方法	実習場所
1. コミュニケーションや支援の実際から、子育て支援センター、子育て世代包括支援センター事業を利用する対象の身体的・心理的・社会的特徴、ニーズを理解する。 2. 子育て支援センター、母子保健施設の職員の講話から、支援の実際と既習の知識とを関連付ける。対象が地域で生活するために必要な支援についても考察する。 3. 近隣の高等学校での性の健康教育の実践から、思春期にある対象の特徴を理解し、リプロダクティブヘルス／ライツを尊重する母性看護の役割を考察する。 4. 全ての実習場所においてコミュニケーションの基本と対象者の特性に配慮した実践を行う。 5. 母性看護における協働の理解として、関連する職種の専門性と役割と地域における社会資源や支援の実際の理解、多職種協働の意義の理解を目指し、「健やか親子 21」の概念を用いて、社会のあり方を考察する。 6. 実習目標の達成に向けて内省し、継続して学習に取り組むことができる。	子育て支援センター 母子保健施設 近隣の高等学校

〈　評　　価　〉

実習評価表に基づく評価

授業科目（単位―時間） 小児看護学実習Ⅱ(1 単位―45 時間)	時　　期 3 年前期・後期	担　当　講　師 加藤　恵

〈　実習目的　〉
1. あらゆる発達段階の小児とその家族を理解し、健康の保持増進と回復するための看護を学ぶ。

〈　実習目標　〉
1. 小児とその家族の身体的・心理的・社会的特性を成長発達と関連付けて理解できる。
2. 小児とその家族の特性を意識し、健康の予防と回復･維持にむけたセルフケア支援を行うことができる。
3. 小児とその家族の権利や意思を尊重し、倫理的原則を踏まえたケアの実践を検討できる。
4. 小児とその家族と関係性を築き、発達段階に合わせて意図的にコミュニケーションを実践できる。
5. 小児看護に関わる多職種との協働･連携を学び、看護チームの一員として報告･相談、伝達ができる。
6. 実習目標の達成に向けて内省を活かし、継続して学習に取り組むことができる。

内容及び方法	実習場所
〈小児科病棟･外来実習〉 1. 小児の身体的・心理的・社会的な特性を、解剖整理や疾患・成長発達と関連付けて理解できる。 2. 病棟：小児の発達段階や個性に応じた回復の促進、日常生活援助、コミュニケーションを実践する。 NICU：見学を通して、成長発達に促進のための母子相互作用と環境調整を学ぶ。 乳児健診・予防接種：実践や見学、コミュニケーションを通して、あらゆる健康レベルの小児と家族の看護について理解する。 3. 実習での体験や見学を通して、倫理的原則を踏まえたケアの実践をカンファレンスで話し合う。 4. 小児の発達段階に合わせ、成長を支える意図的なコミュニケーションを行い、小児とその家族の良好な関係を築く。 5. 病棟や外来で行われるカンファレンスを見学し、多職種や地域との協働･連携について考察できる。 6. 実習目標達成と自己の課題を意識した成長を目指す計画的、継続的学習が行える。 〈子ども通園センター実習〉 1. 指導者の指導･助言を受けながら、個別･集団療育で担当する小児と家族への支援について知り、小児の成長発達を促進するための工夫を理解できる。 2. 成長発達に個性をもつ小児の、もてる力を伸ばす支援の実際を学ぶ。	砂川市立病院 ･3 階病棟（東） ･小児科外来 子ども通園センター

〈　評　　価　〉
実習評価表に基づく評価

授業科目（単位―時間） 母性看護学実習Ⅱ（1 単位―45 時間）	時　　期 3 年前期・後期	担　当　講　師 亀井　聡子

〈　実習目的　〉

周産期にある対象を総合的に理解し、健康レベルに応じた援助を学ぶとともに、母親役割獲得過程にある対象や新生児への看護を学ぶ。

〈　実習目標　〉

1. 周産期にある対象の身体的・心理的・社会的特徴が理解できる。
2. 周産期にある対象のもてる力に着目し、ウエルネス志向に基づく看護を実践することができる。
3. 周産期にある対象の権利を尊重し、倫理に基づく看護が安全・安楽に実践できる。
4. 母子関係の形成に留意し、子育て支援者として母子および家族と関係性を築くことができる。
5. 母性看護の場と看護の役割を学び、協働のあり方を理解できる。
6. 実習目標の達成に向けて内省し、継続して学習に取り組むことができる。

内容及び方法	実習場所
1. 周産期（妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期）にある対象を受け持ち、その身体的・心理的・社会的特徴を理解する。 2. 産褥期、新生児期にある対象のもてる力を理解し、健康を促進する看護が実践できる。 1）産褥期にある対象の退行性変化、進行性変化を促進する看護の実践 2）新生児期にある対象の子宮外生活適応を助長し、体重減少、黄疸が生理的範囲を逸脱しない看護の実践 3. 周産期にある対象の権利を尊重し、倫理に基づく看護が安全・安楽に実践できる。 1）母子とその家族の価値観、希望を尊重した看護の実践 2）新生児期にある対象への安全・安楽を優先した看護の実践 4. 母子関係の形成に留意し、子育て支援者として母子および家族と関係性を築くことができる。 1）対象の特性に応じたコミュニケーションの実践 2）子育て支援者としての関係性の構築 5. 母性看護の場と看護の役割を学び、協働のあり方を理解できる。 1）周産期にある対象を支援する看護の役割、関係する職種の理解 2）周産期にある対象への望ましい協働の考察 6. 実習目標の達成に向けて内省し、継続して学習に取り組むことができる。	砂川市立病院 ・3 階病棟（西）

〈　評　　価　〉

実習評価表に基づく評価

授業科目（単位ー時間） 精神看護学実習（2 単位ー90 時間）	時期 3 年前期・後期	担　当　講　師 更谷　周子

〈　実習目的　〉

1. 精神障害・精神疾患のある対象の回復や自立に向け、障害されている日常生活行動、対人関係能力を支える援助方法を学ぶ。更に対人関係のプロセスや対象理解と自己理解のための知識、技術を学ぶ。
2. 精神障害・精神疾患のある対象が地域社会で生活するためのしくみや連携・協働について学ぶ。

〈　実習目標　〉

1. 精神障害･精神疾患のある対象者と支援者の対人関係を含む日常生活に及ぼす影響について理解できる。
2. 精神障害・精神疾患のある対象者が回復に向かうために、臨床判断の活用とリフレクションの継続を意識した実践ができる。
3. 倫理観に基づき患者の自己決定を尊重し、安全安楽に配慮した援助を実践できる。
4. 精神看護のケアの前提を活用したコミュニケーションを実践できる。
5. 保健医療福祉チームにおける多職種の役割を理解し実践できる。
6. 実習目標の達成に向けて、内省を活かし、継続して学習に取り組むことができる。

内容及び方法	実習場所
1. 対象を理解するために事実を基にした情報整理、病態の理解とアセスメント、具体的で実践可能な計画・立案、援助の実践と評価ができる。 1) 治療による影響を考慮したフィジカルアセスメント 2) ケア方針に沿った看護実践の評価 2. 臨床判断の活用とリフレクションの継続を意識した実践ができる。 1) 自己の言動の特徴が対象に与えている影響の考察 2) 精神障害・精神疾患のある対象者との関係を構築するためのコミュニケーション技術の活用 3) 患者の自己決定を尊重し、安全安楽に配慮した援助の実践 3. 倫理観に基づき患者の自己決定を尊重し、安全安楽に配慮した援助を実践できる。 4. 精神看護のケアの前提を活用したコミュニケーションを実践できる。 1) 倫理的ケアを目指し、自己のリフレクションを意図的に行う 2) 精神看護の役割を理解し、看護者としてのあり方や看護観の表現 5. 精神保健医療福祉に関係の深い多職種連携の実際を体験できる。 1) 認知症センター、障害者自立支援施設、地域生活支援センターの実習から保健福祉医療チームの一員としての役割の体験 6. 実習目標の達成に向けて、内省を活かし継続した学習の取り組むことができる。 1) 実習目標の達成に向けた主体的・計画的な学習の取り組み 2) 疑問を明らかにした解決の為の行動 3) 時間管理、約束事を守り、継続した取り組み	砂川市立病院 ・精神科病棟 ・認知症疾患医療センター ・障害者自立支援施設地域生活支援センター

〈　評　　価　〉

実習評価表に基づく評価

授業科目（単位ー時間） 看護の統合と実践実習（2 単位―90 時間）	時　　期 3 年 後期	担　当　講　師 戸田　悦子

既習の知識・技術・態度を統合し、看護実践に必要な能力を深めることをねらいとする。保健医療福祉チームの一員として看護の実際と役割を理解し、統合された判断と継続的な看護を展開する基礎的能力を養う。

〈　実習目標　〉

1. 看護チームの一員として複数の患者への看護を実践できる。
2. 医療チームの一員として看護の役割（看護学生）を遂行できる。
3. 看護実践のためのマネジメントを理解できる。
4. 看護師の倫理綱領を遵守し看護専門職として責任ある行動ができる。
5. 看護専門職者としてキャリアマネジメントへの展望から、自己の課題を明らかにできる。
6. 主体的に学習し責任ある行動がとれる。

内容及び方法	実習場所
1. 看護チームの一員として複数の患者への看護実践 1）時間配分や優先順位を判断した主体的な情報収集 2）時間配分や優先順位を判断した計画的な行動 3）ケア方針に沿った具体的で実践可能な援助 4）受持ち患者との良好な患者―看護者関係の構築 5）看護実践（期待される結果）の評価 2. 医療チームの一員として看護の役割（看護学生）遂行 1）看護職者の責任を自覚した情報共有 2）看護職者の責任を自覚した協調 3）看護職者の責任を自覚したエンパワーメント 4）夜勤帯での看護師の役割の理解 5）他職種との協働と連携の理解 6）一勤務帯（日勤）での看護の流れの把握 7）入退院時の看護の流れの把握 3. 看護実践のためのマネジメント 1）モジュールコーディネーターの役割の理解 2）モジュールメンバー間の協力や看護の提供方法の理解 3）病棟における看護管理者（看護師長）の役割と責任と業務の理解 4. 看護師の倫理綱領を遵守した看護専門職として責任ある行動 1）看護師の倫理綱領の実践的な理解 2）守秘義務の遵守と、個人情報・プライバシー保護の実践 3）自己決定の権利の尊重とインフォームドコンセントの理解 5. 看護専門職者としてキャリアマネジメントへの展望および自己の課題 1）自己の看護観と課題の明確化 2）看護専門職者としてのキャリアプランの明確化 6. 主体的な学習と責任ある行動 1）実習に支障をきたさない健康管理 2）身だしなみに気を配り、礼儀正しく節度ある行動 3）責任を持ち約束事を守る姿勢 4）実習目標の達成に向けた主体的・計画的な学習への取り組み 5）学習者としての課題の意識と取り組み	砂川市立病院 ・8 部署 3～4 名/グループ

〈　評　　価　〉

実習評価表に基づく評価